

I 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2015 年度大学評価結果総評】</p> <p>・該当なし</p>
<p>【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】 (～400 字程度まで)</p> <p>・該当なし</p>

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。	
①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【SSI 執行部の構成、基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程に則って、運営委員会を構成し、執行部を構成している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程</p>	
1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	
①学部（学科）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※SSI が提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>SSI は学部横断的な仕組みである。そして、各学部より選出された、各学部のカリキュラムに精通した運営委員で構成される運営委員会によって、運営されている。執行部は、定例の執行部会議を毎月開催するだけでなく、必要に応じて臨時の執行部会議を開催し、運営委員会を主導している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程</p>	
1.3 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。	
①学部（学科）等内の F D 活動は適切に行なわれていますか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>【F D 活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・全ての SSI 主催科目のシラバスを執行部がチェックしている。改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指摘を行っている。</p> <p>【2015 年度の F D 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・各教員は、各学部において行われている F D 活動に参加し、必要に応じて、運営委員会においてフィードバックを行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・SSI 科目シラバス原稿作成の手引き</p> <p>・法政大学シラバス WEB 入稿管理システム教員向け入稿ガイド（全学部・大学院共通）</p> <p>・市ヶ谷 SSI シラバスに関する疑義・指摘</p> <p>・多摩 SSI シラバスに関する疑義・指摘</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・SSIにおいて、より幅広い教育内容を提供するために、本学スポーツ健康学部に対して、SSIとの連携強化を呼びかける。具体的には、SSI主催科目の授業担当や、スポーツ健康学部の科目をSSIに公開することを検討するよう依頼する。2016年度において、SSIの授業を担当しているスポーツ健康学部の専任教員は、17名中3名にとどまっている。また、スポーツ健康学部の授業で、SSI生に公開されている授業は存在しない。

・SSIでは、その性質上、アドミッションポリシーやディプロマポリシーを作成することはできないが、カリキュラムポリシーを策定することは可能であると考えられる。そこで、今年度は、SSIのカリキュラムポリシーを策定する。

【この基準の大学評価】

スポーツ・サイエンス・インスティテュート（以下、SSI）は、スポーツ文化を担う学生を育てる学部横断的な教育プログラムであり、各学部より選出された教員で構成される執行部と運営委員会により運営が行われている。また、SSIには10学部が参加しているため、各学部のカリキュラムに応じた内容の検討にはSSIと学部のより深い連携が必要である。

FD活動については、各教員が所属学部のFD活動に参加し、運営委員会へフィードバックを行っている。さらに、年度末に実施するSSI主催科目担当教員（専任・兼任）による懇談会や卒業を控えた4年生を対象とした「SSI卒業予定者向けアンケート」など、SSI独自の取り組みも行われている。

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>限られた総コマ数の中で、SSI生に対して幅広い教育内容に触れる機会を提供するために、2015年度から、I・IIと2コマ分開講していた複数の科目について、教育内容を整理・集約することで、科目を1つに集約した(例「スポーツ方法論I・II」を「スポーツ方法論」に)。そのことによって、戦略的に総コマ数のゆとりを作った。そして、1)市ヶ谷キャンパスで開講しているSSI主催科目を(市ヶ谷キャンパスに比べると開講科目数が少ない)多摩キャンパスでも開講する、2)「スポーツ情報戦略論」など最新のスポーツ科学の知見に基づいた科目を開講するという、2つの展開を行っている。</p> <p>なお従来、文学部の心理学科を除く5学科のSSI生は、入学直後に卒業論文の単位を履修するかを判断しなければならなかった。しかし、文学部SSI運営委員の要請によって、2015年度より、上級学年になってからその判断を行えるように、文学部5学科のSSIコースのカリキュラムが変更となった。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSI履修要綱・講義概要(シラバス) 	
②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>SSIの学生は、各学部にも所属しているため、各学部で行われている初年次教育やキャリア教育に参加している。SSIにおいては、SSI基礎科目として開講されている7つの必修科目や、「スポーツ学入門」などが、初年次教育の役割を果たしている。キャリア教育としては、「アスリートキャリア論」や「アスリートのキャリアマネジメント」などを開講している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSI履修要綱・講義概要(シラバス) 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・2017年度からのILACのカリキュラム改革に伴い、各学部に対して、SSI卒業所要単位変更の要求を行う。
- ・「アメリカンフットボール部」「サッカー部」「水泳部」「テニス部」「バレーボール部」「ラグビー部」「陸上競技部」「バドミントン部」の8部に所属するSSI生に対しては、SSI主催科目として「スポーツ実習」を開講し、部活動と連動した単位認定の仕組みを整えている。しかし、他の部に所属するSSI生については、そのような仕組みが存在しない。そこで今年度は、この実習科目の見直しについて、運営委員会において意見交換を行う。運営委員会で具体的な提案がなされ、その提案が運営委員会で承認された場合は、その提案にしたがってSSIのカリキュラム改定を行う。
- ・SSI生が卒業するためには、最低でもSSI科目を44単位履修する必要がある。44単位という単位数に鑑みると、SSIで開講している科目の数はきわめて限定的である。そこで、SSI生が履修できる科目数を増加させるために、各学部の学部主催科目をSSI専門科目として公開してもらえよう、各学部に対して働きかける。なお、2016年度に各学部で主催している科目のうち、SSI専門科目としてSSIに公開されている科目は、市ヶ谷キャンパス40科目(春学期科目22科目、秋学期科目17科目、年間科目1科目)、多摩キャンパス60科目(春学期科目29科目、秋学期科目31科目)である。一方SSIでは、SSIコースに所属していない学生に公開している科目も複数存在する(例「アスリートキャリア論」)。

【この基準の大学評価】

SSIでは、2015年度より2コマ分割していた科目をひとつの科目に集約を行い、教育内容を整理する一方で、市ヶ谷キャンパス開講科目の多摩キャンパスへの展開、最新のスポーツ科学の知見に基づいた科目開講などの取り組みが行われており、学生の能力育成のための教育が提供されていると評価できる。ただし、多くの学部、2つのキャンパスに所属するSSI学生の特殊性を考慮し、より集中して学習できるよう、さらなる工夫を望みたい。

初年次教育・キャリア教育については、所属学部などにおける科目履修により行われている。また、SSIにおいても独自に初年次教育の役割を果たす基礎科目の提供やキャリア教育科目が提供されている。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学前の3月末に、SSI新入生全員を招集し、SSIガイダンスを行っている。 ・年度当初に各学部で開催される学部ガイダンスでは、ほとんどの学部のガイダンスにおいて、SSIに関する説明を行っている。文学部のように、SSIに特化したガイダンスを学部独自で別途開催している学部もある。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生のSSIガイダンスへの参加について(お願い) ・SSIガイダンスの開催について(ご案内) ・2016文学部スポーツ推薦入学者ガイダンス配付資料 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>3月末に行っているSSIガイダンスにおいて、市ヶ谷・多摩キャンパスから複数の教員が出席し、履修の際の助言を行ったり、授業への出席を強く促したりするなど、修学上の注意事項を説明している。</p> <p>SSIの学生は、授業実施日に公式戦が開催されることが多いため、授業を欠席せざるを得ないことがある。その際は、大学の公式書類である「競技参加による欠席願」を授業担当教員に提出するよう指導している。</p> <p>授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、授業支援システムを利用した資料配布や課題の設定などを行っている。授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目(スポーツ心理学)において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業の授業支援システムのホームページ 	
③学生の学習時間(予習・復習)を確保するための方策を行なっていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目(スポーツ心理</p>	

<p>学)において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。また、授業支援システム(今年度より導入されたOATube)を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業の授業支援システムのホームページ</p>	
④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入(取組例:PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」などのアクティブラーニングを採用している。 授業支援システム(今年度より導入されたOATube)を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業の授業支援システムのホームページ</p>	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入(取組例:執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全てのSSI主催科目のシラバスを執行部がチェックしている。改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指摘を行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI科目シラバス原稿作成の手引き ・法政大学シラバスWEB入稿管理システム教員向け入稿ガイド(全学部・大学院共通) ・市ヶ谷SSIシラバスに関する疑義・指摘 ・多摩SSIシラバスに関する疑義・指摘</p>	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入(取組例:後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末において、SSI主催科目担当教員(専任・兼任)による懇談会を開催している。 卒業を間近に控えた4年生を対象に、「SSI卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートの回収率は非常に高く、2015年度は、対象者198名中169名のデータを回収している(回収率84.8%)。このアンケート内で、SSI主催科目に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI卒業予定者向けアンケート集計結果</p>	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会において、全学およびSSIのGPCA平均集計表を配布している。 運営委員会において、成績評価方法に関する意見交換を行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA平均集計表(全学とSSI)</p>	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①組織的な教育成果の検証を定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 執行部が招集したSSIカリキュラム委員会において、カリキュラム編成や授業担当者に関する意見交換を行っている。 年度末において、SSI主催科目担当教員(専任・兼任)による懇談会を開催している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p>	

・シラバスの「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」の欄を記入するよう、各教員に促している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・各授業のシラバス

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・SSI ガイダンスに出席するように、毎年 3 月に開催される部長・監督会において注意喚起をしている。2016 年度の出席状況は 215 名中 177 名であった（出席率 82.3%）が、出席者のいない部が 3 部あった（ラグビー部、弓道部、馬術部）。そこで、この 3 部についてはとくに、新入生の出席を促すよう強く要請する。
- ・SSI コースを開設している全ての学部に対して、学部内で SSI に関するオリエンテーションやガイダンスを行うよう働きかける。

【この基準の大学評価】

SSI の学生は、10 学部、2 キャンパスそれぞれに所属し、文系・理系と非常に多様化しているため、履修指導・学習指導と学習時間の確保に関するモニタリングの必要があると思われる。一般学生よりも学習時間が少ない環境において、いかに集中して短時間で学習効果をあげるか、試合などで欠席したときにどのように補うのかについて、管理するシステムが必要であると思われるが、新たに導入している「授業支援システム (OATube)」の利用状況をみて、改良が必要な点などがあれば、より良い管理システムの確立に向け努力する必要がある。

成績評価と単位認定については、運営委員会における GPCA データの共有、意見交換により適切性の確認が行われている。教育成果の検証については、カリキュラム委員会での意見交換、SSI 主催科目担当教員による懇談会により行われている。

また、授業改善アンケート結果はシラバスに反映するように各教員に促されている。独自に行われている「SSI 卒業予定者向けアンケート」については回収率も高いので、よりきめ細かな検討を行い、教育にフィードバックする努力が望まれる。

4 成果

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

① 学生の学習成果を測定していますか。

A B C

(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入（習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。

卒業を間近に控えた 4 年生を対象に、「SSI 卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートの回収率は非常に高く、2015 年度は、対象者 198 名中 169 名のデータを回収している（回収率 84.8%）。このアンケート内で、SSI の授業に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果

②成績分布の状況を把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法等】※箇条書きで記入。

- ・運営委員会において、全学および SSI の GPCA 平均集計表を配布している。
- ・運営委員会において、成績評価方法に関する意見交換を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・GPCA 平均集計表（全学と SSI）

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・運営委員会において、SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果を配布して、意見交換を行っているが、今後は各委員に対して、この集計結果を各学部で周知してもらえよう依頼する。

【この基準の大学評価】

SSI では学生の学習成果について、「SSI 卒業予定者向けアンケート」をもとに測定し、結果は運営委員会にフィードバックされている。しかし、アンケートだけでは十分に学習成果を測定してとは言えないので、他の指標の検討も望まれる。また、新たに導入している「授業支援システム (OATube)」の利用をさらに進め、総合的な学生の学習状況と成績情報を把握するシステムの確立にも努力の必要があろう。 成績分布の状況については、GPCA により把握されている。

5 内部質保証

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 内部質保証システム (質保証委員会等) を適切に機能させているか。	
①質保証活動に関する各種委員会 (質保証委員会等) は適切に活動していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【2015 年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。</p> <p>・これまでに、質保証活動に関する委員会は設置していない。しかしこれは、SSI 運営委員会の規模が小さいためであり、委員全員が、質保証活動に携わっているということもできる。とりわけ、SSI 運営委員会には、各学部教授会から選出された専任教員 (1 号委員) だけでなく、SSI 授業の担当教員 (2 号委員) が属していることから、運営委員会内で、質保証活動に関する議論は十分に行っていると考えている。</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

SSI では各学部から選出された教員で構成される運営委員会が、実質的に質保証の役割を担っている。今後も PDCA サイクルが機能するよう、質保証に関する議論を十分に行っていただきたい。
--

【大学評価総評】

SSI の学生の所属学部は、非常に多様なので、各学部の専門科目と SSI 科目を関連させた履修について、支援していく必要がある。また、各自のスポーツの鍛錬と所属学部の学習とのバランスをとりながら、スポーツと専門分野の知識の習得を共に行う必要もある。 そのため、「授業支援システム」の活用と、「SSI 卒業予定者向けアンケート」などの結果の分析について、SSI 執行部・運営委員会ですら十分に検討し、文武両道の学生を育成するのに相応しい方法・システムの構築を期待したい。

I 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2015 年度大学評価結果総評】</p> <p>・該当なし</p>
<p>【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）</p> <p>・該当なし</p>

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。														
①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	はい												
<p>【執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・国際日本学インスティテュート運営委員会を設置（インスティテュートの管理運営に関する事項を審議。運営委員会には委員長をおく）。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・法政大学大学院人文科学研究科国際日本学インスティテュート運営委員会規程</p>														
1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。														
①研究科（専攻）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	はい												
<p>(～400 字程度まで) ※カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>本インスティテュートは人文科学研究科のうち、哲学・日本文学・英文学・史学・地理学の各専攻が共同で開設する日本学研究のコースである。教員は専担・兼担・兼任の 3 種に分かれる。専任教員は上記 5 専攻のなかから、思想・文学・芸術・サブカルチャー・言語・歴史・民俗・社会・地理・環境等の面から日本研究に携わる 21 名の教員により構成される。専任教員は修士課程の演習科目「国際日本学演習 I・II」（必修科目）を担当するほか、修士・博士論文の指導を行う。兼任教員は上記 5 専攻と他研究科・学部、研究所に所属する教員 15 名から成り、兼任教員は本学以外より委嘱した 40 名から成る。兼担・兼任教員は、本インスティテュートの基幹科目・関連科目（必修選択科目）を担当し、主に人文科学の諸領域を基盤とした日本研究について教授するほか、留学生の日本語教育も担当している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2016 年度『大学院講義要項（シラバス）』p.6（国際日本学インスティテュート教員組織）</p>														
2016 年度研究指導教員数一覧（専担）（2016 年 5 月 1 日現在）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究科・専攻 ・課程</th> <th>研究指導 教員数</th> <th>うち教授数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修士</td> <td>19</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>博士</td> <td>21</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>研究科計</td> <td>40</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table>	研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	修士	19	18	博士	21	20	研究科計	40	38		
研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数												
修士	19	18												
博士	21	20												
研究科計	40	38												
1.3 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。														
①研究科（専攻）等内の F D 活動は行われていますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B C												
<p>【FD 活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・国際日本学インスティテュート運営委員会</p> <p>【2015 年度の F D 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・2015 年 8 月 8 日、学内、留学生に対する日本語教育における教育効果向上に向けた意見交換、4 名。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>														

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2016 年度より専任教員を 2 名増員することを決定した。	1. 2①

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

<p>国際日本学インスティテュートは、2011 年度に人文科学研究科内の心理学専攻を除く 5 専攻の共同で開設された日本学研究に特化した教学組織であり、教員組織も、専任教員(21 名)・兼任教員(15 名)・兼任教員(40 名)の 3 種から構成され、相応の独自性を持っている。また、そのことにより、従来型の専攻とは異なる柔軟性と機動性を備えていることは評価できる。そのような特質があるとはいえ、国際日本学インスティテュート運営委員会のもとで教育組織としての役割分担と責任の所在は明確にされている。FD 活動においては、他専攻の留学生に対する日本語教育にも注力しており、大学院のグローバル化推進への貢献が大いに期待される。</p>

2 教育課程・教育内容

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>【教育課程の編成・実施方針】</p> <p>指導教授が指導する 10 以上の演習では、通常の授業のほかに論文指導を行っている。全員参加の国際日本学入門や合同演習では、日本の今昔の様々な文化をゲスト講師から学び、さらに互いの論文テーマの発表や意見交換を行っている。英語、日本語それぞれの文章訓練を行う授業もある。独自の基幹科目と多様な共通科目があり、他専攻の授業で単位を取得することも可能である。このように選択の自由のもとで幅広い知識を得ながら、演習では高度な専門的論文を執筆できるようカリキュラムが生まれ、それを実施している。</p>	
<p>2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>修士課程ではコースワーク・リサーチワークが適切に組み合わせられたカリキュラムが編成されている。同課程では修士論文の提出が義務づけられ、そのための研究指導科目として「国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ」「国際日本学合同演習」が 1・2 年各年次必修で開講されている。これが本インスティテュートにおけるリサーチワークに該当する。また、コースワークとしては、日本研究にかかわる多様な科目群が本インスティテュート独自に開講されているほか、本インスティテュートを開設する 5 専攻と合同で開講されている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2016 年度『大学院講義要項 (シラバス)』pp. 273～276 (科目一覧)</p>	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	A B <input checked="" type="checkbox"/> C
<p>(200～400 字程度) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>博士後期課程でのカリキュラムは研究指導のための授業科目が設置されているのみで、コースワークが導入されていない。だが、2017 年度にはコースワーク・リサーチワークを組み合わせた新カリキュラムを導入することが決定している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p>	
①専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C

(～400 字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

修士課程のカリキュラムは、学籍科目(4単位以上)、必修科目(12単位)、国際日本学基幹科目・国際日本学関連科目(8単位以上)から構成されている(修了所要単位30単位以上)。このうち、必修科目の「国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ」「国際日本学合同演習」(1・2年各年次履修、計12単位)では、修士論文作成に向けた研究指導が行われている。また、本インスティテュート独自の開講科目である「国際日本学関連科目」、本インスティテュートを開設する5専攻と合同開講する「国際日本学関連科目」、学生の所属専攻の開講科目から履修する「学籍科目」を通じて、学生は日本研究にかかわる諸領域を幅広く、かつ専門的に学ぶことが可能となっている。

博士後期課程では「国際日本学研究Ⅰ・Ⅱ」ほかの科目が設置されており、博士論文作成に向けた研究指導が行われている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度『大学院講義要項(シラバス)』p.277(履修上の注意)

②大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。

A B C

(～400 字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。

本インスティテュートでは在籍者の約9割が留学生であるため、教育のグローバル化は必須である。まず、修士課程には「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」を開講し、留学生の日本語作文力の指導に努めている。また、日本文学専攻と合同で、「日本文学・国際日本学基礎演習」「日本文学・国際日本学論文作成基礎実習」を開講し、主に研修生クラスを対象とした日本語・日本研究の基礎教育を行っている。一方で、「国際日本学論文作成実習(英語)Ⅰ・Ⅱ」を開講し、学生が英語で自身の研究を発表・論文化する力を育成するとともに、「Issues in Japanese StudiesⅠ」を開講し、英語による日本研究の科目も設けている。さらに、2016年度からは人文科学研究科全体の外国語科目を改革し、英語をはじめとする諸外国語の科目が単位化されることになった。このほか、本学大学院が実施している海外における研究活動補助制度の活用を促し、海外における研究発表等を奨励している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度『大学院講義要項(シラバス)』pp.8～9(外国語科目の履修について)、p.277(履修上の注意)

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2015年度に国際日本学基幹科目に「サブカルチャー論Ⅰ・Ⅱ」を新設した。	2.2①
・2015年度に「国際日本学論文作成実習(日本語)Ⅰ・Ⅱ」を能力別2クラス制から3クラス制へ拡充した。また、2016年度より、これを「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」に再編し、教育の充実化を図ることを決定した。	2.2②
・2015年度に国際日本学関連科目に「Issues in Japanese StudiesⅠ・Ⅱ」を新設した。	2.2②

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・2017年度に博士後期課程にコースワーク制(単位制を含む)を導入する予定。カリキュラムはすでに決定している。

【この基準の大学評価】

国際日本学インスティテュート修士課程ではコースワークとリサーチワークを組み合わせた教育が適切に実施されていることは評価できる。博士後期課程では、2017年度からコースワークとリサーチワークを組み合わせた新カリキュラムを導入する方針が決定しており、予定通り実現し教育効果が向上することを大いに期待したい。修士課程の学籍科目・必修科目・国際日本学基幹科目・国際日本学関連科目から構成される独創的なカリキュラムは先駆的な試みとして評価できる。また、在籍者の約8割が留学生であることは、大学院全体のグローバル化の推進力として大いに期待できる。留学生に日本語の基礎教育と同時に、英語による研究能力も高める工夫を凝らしている点も高く評価できる。研究活動補助制度が研究を行う上で十分ではない状況にあるとのことであり、研究活動補助制度の改善要望も含めた検討・対応を期待したい。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員長がオリエンテーションを通じて指導している。 ・『大学院講義要項（シラバス）』中に「履修上の注意」の項目を設け、履修方法を明示している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』p.277（履修上の注意） 	
②研究科（専攻）等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【研究指導計画の明示方法】 ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国際日本学合同演習」における論文報告会の設定が、修士・博士論文作成に向けた過程に対応している。よって、同科目のシラバス（授業計画の項）が、本インスティテュートにおける研究指導計画を示している。 <p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』p.300（国際日本学合同演習） 	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>（～400字程度まで） ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>修士課程においては、専任教員がそれぞれ「国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ」を担当し、修士論文執筆に向けた研究指導を行っている。また、「国際日本学合同演習」では修士課程の全学生が履修し、研究内容の定期的な報告を行うとともに、学生・教員間の討議も行っている。</p> <p>博士後期課程においては、専任教員が担当する「国際日本学研究Ⅰ・Ⅱ」等を通じて、博士論文執筆に向けた研究指導を行っている。また、博士後期課程の学生も「国際日本学合同演習」に定期的に参加し、研究の中間報告を行うことが義務づけられている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』pp.278～299（国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ） ・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』p.300（国際日本学合同演習） 	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員長による全シラバスチェックを実施している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会において、成績評価方法を必要に応じて審議している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①組織的な教育成果の検証を定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会において、学生の学修状況に照らして論文指導体制、授業のあり方について、必要に応じて審議している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A B <input checked="" type="checkbox"/> C
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・授業がシラバスに沿って実施されているかの検証、学生による授業改善アンケートの結果の活用についての検討が必要である。
--

【この基準の大学評価】

<p>国際日本学インスティテュート運営委員会委員長を中心に履修指導は適切に行われていると評価できる。研究指導計画については、「国際日本学合同演習」や「国際日本学入門」、各演習などにおいて、委員長をはじめ、各専任教員から適切に周知が行われている。シラバスの検証については、必修科目の一部と基幹科目について、授業改善アンケートにより行われている。なお、授業がシラバスに沿って行われているかの検証や授業改善アンケートの結果の活用については検討を要するとのことなので、今後の検討と必要に応じた改善に期待したい。</p>

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】 修士の学位授与にあたっては、他の専攻とは異なり、幅広い分野を取り込んだ日本学の論文を執筆完成することを推奨している。博士の学位授与にあたっては、より専門的な論文を執筆するも、従来顧みられなかった大衆文化や異文化など多様な視点や個性的なアプローチ、挑戦的な方法を推奨している。博士後期課程の学生は国際日本学研究所の学術研究員となり、研究成果の発表、学会参加などの機会が提供され、研究者としての意欲が求められる。	
4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。 本インスティテュートでは学生の学修成果は学位論文を通じて測定している。そのため、修士論文の最終試験(口述試験)は全教員立ち会いのもとで実施し、学生の到達度を確認している。また、論文執筆の過程で「国際日本学合同演習」の一環として中間報告会を随時設け、こちらへも全教員が参加し、学生の学修成果について確認を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
4.2 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。	
①学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
【学位論文審査基準の明示方法】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション時に配布している。 ・指導教員を通じて配布している。 	

<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際日本学インスティテュートにおける修士論文審査基準に係る規程 ・国際日本学インスティテュートにおける博士論文の審査基準に係る規程 	
②学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、運営委員会において修士論文、博士論文の提出・合格状況を確認している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
③学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>リサーチワークを重視する本インスティテュートでは、学位の水準を保つことは即ち学位論文の水準を保つことにほかならない。そのため、修士課程では「国際日本学合同演習」を1・2年次必修科目として、研究方法の共有化を図るとともに、修士論文執筆に向けた中間報告会を実施している。また、修士論文口述試験は全教員立ち会いのもと行い、成績評価は合議で判定している。</p> <p>博士後期課程においても「国際日本学合同演習」における中間報告を義務化している。また、規程により、予備審査を実施することを定めるほか、提出資格（既発表論文数および査読付き雑誌発表論文数）を定めている。口述試験は公開制で実施し、透明化を図っている。</p>	
④学生の就職・進学状況を組織的に把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学全体として、卒業・修了時に「卒業生カード」を通じて進路を申告させている。ただし、母国に帰国する留学生は、帰国後に就職活動を行うため、その進路をすべて把握することは困難である。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・学生の就職・進学状況の組織的な把握の方策の検討が必要である。

【この基準の大学評価】

<p>国際日本学インスティテュートでは、論文執筆過程での中間報告会や最終試験(口述試験)において、学生の学習成果を測定するために全教員参加のもとで適切に行われており、高く評価できる。</p> <p>学位授与状況は適切に把握されている。</p> <p>学生の就職状況の把握に関しては、外国人留学生が多数を占めることもあり、現状では個々の教員に任されている。</p>

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>【学生の受け入れ方針】</p> <p>日本研究は従来より、様々な専門分野に分かれている。本インスティテュートは、従来の分野に収まりきれないテーマを持っている者や、広い視野で日本を研究したいと願っている学生や社会人や外国人留学生にとって、適切である。多様な分野の教員による演習では丁寧な論文指導を行い、指導教員の演習を拠点に、他の演習や授業でも指導を受けることができる。一般入試のほかに社会人入試を設けており、さらに外国人入試では多くの留学生を受け入れている。</p>

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～200字程度まで) ※募集人員およびその充足状況をどのように捉えているかを記入。</p> <p>社会に向けて定員を14名と公表している。しかし、本インスティテュートは人文科学研究科5専攻が共同で開設するコースであり、学生はこのうちのいずれかの専攻に所属することになる。したがって、実際には定員は専攻ごとに管理されることになる。現在、本インスティテュートへの入学者は毎年20～30名で推移しているが、専攻ベースで見た場合、超過・未充足が生じている。未充足分については、本インスティテュートでも入試改革(下記「(2)特記事項」参照)や、進学ミニ講演会の開催などにより、充足に努めている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	
①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会において検証を行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・ESOP受講者対象研修生入試を導入した。	5.1①
・大学院入試協定にもとづく中国現地入試に福建師範大学が加わり、4大学を対象とする入試となった。また、協定を変更し、受験資格を卒業見込みの者から卒業後3年以内の者に拡大した。	5.1①

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・本インスティテュートの学生を含めると、各専攻で定員の超過・未充足が生じる。そのため、各専攻における定員の設定・管理の妥当性を検証し、改善する必要がある。

【この基準の大学評価】

<p>対外的に公表している国際日本学インスティテュートの入学定員と実際の入学者の間にずれがあることは、事実上の定員管理を専攻に委ねていることによりやむを得ないとも思われるが、抜本的な改善の余地がないのかどうか疑問が残る。専攻ベースでは定員の超過や未充足の問題が生じているものの、ESOP受講者を対象とする研修生入試や中国での現地入試など入試制度改革によって定員の未充足の改善に努めていることは評価できるので、その成果に期待したい。</p>

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。	
①研究科(専攻)等として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>本インスティテュートでは、「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」を開講し、留学生の日本語作文能力の強化に努めている。また、日本文学専攻と共同で、研修生クラスの学生を対象に「日本文学・国際日本学基礎演習」「日本文学・国際日本学論文作成基礎実習」を開講し、調査・研究方法の指導、日本語作文の指導も行っている。授業以外では、本学大学院が実施しているチューター制度、諸外国語による論文等校間補助制度を活用し、日頃の学修活動から修士論文執筆まで円滑に進むよう支援している。</p>	

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』pp. 93～94、303～308

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2015年度に「国際日本学論文作成実習（日本語）Ⅰ・Ⅱ」を能力別2クラス制から3クラス制へ拡充した。また、2016年度より、これを「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」に再編し、教育の充実化を図ることを決定した。	6.1①

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

国際日本学インスティテュートでは、2016年度より「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」において留学生の日本語作文能力の強化に努めており、高く評価できる。実際に授業を行った後での検証も大切であり、検証結果から改善できる点は改善するように、今後の見守りを望みたい。日本語論文作成の授業はレベル分けをしているとのことなので、これもその成果の検証を期待したい。また、授業以外にチューター制度、諸外国語による論文等校閲補助制度の活用などで、日頃の学修活動から修士論文執筆まで支援しているのは適切であり、その成果に期待したい。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2015年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

・本インスティテュートの質保証活動は2015年度まで、人文科学研究科および同研究科質保証委員会が担当してきた。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

国際日本学インスティテュートの質保証活動は人文科学研究科および同研究科質保証委員会が担当し、適切に活動が行われている。

【大学評価総評】

国際日本学インスティテュートは、国際的な視野に立脚する日本学の研究を世界に発信することによって、大学院のグローバル化の推進に貢献するための独創的で柔軟な教学組織として大いに期待できる。約8割を留学生が占めているという実状もその意味で高く評価できる。国際性と学際性をバランスよく発展させ、多国籍の人材が日本学を修め、相応しい文化人としての付加価値を付与されて、国際社会へと還元していくことには教育上の負荷やそれに伴う課題があると思われる。日本語教育や英語教育、入試改革などすでに改善の取り組みは具体的に進んでいて、博士後期課程のコースワーク化を視野に入れたカリキュラムの改革も緒についていることから、今後のさらなる努力と成果に期待したい。また、定員管理と質保証活動については、専攻と同じ基準を適用する必要はないとはいえ、インスティテュートとしてのある程度明

確な独自の方針は引き続き検討が望まれる。

I 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2015 年度大学評価結果総評】</p> <p>・該当なし</p>
<p>【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）</p> <p>・該当なし</p>

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。								
①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ						
<p>【執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・「連帯社会インスティテュート運営委員会」運営委員長・山岸秀雄（NPO プログラム担当）、中村圭介（労働組合プログラム担当）、栗本昭（協同組合プログラム担当）。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>								
1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。								
①研究科（専攻）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ						
<p>（～400 字程度まで） ※カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>「NPO プログラム」「労働組合プログラム」「協同組合プログラム」の 3 つのプログラムで構成されています。これらのプログラムが互いに連携し、「新しい公共」の担い手となる人材を育成しています。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>								
2015 年度研究指導教員数一覧（専任）（2015 年 5 月 1 日現在）								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究科・専攻 ・課程</th> <th>研究指導 教員数</th> <th>うち教授数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修士</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	修士	3	3		
研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数						
修士	3	3						
研究指導教員 1 人あたりの学生数：4 人								
1.3 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。								
①研究科（専攻）等内の F D 活動は行われていますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B C						
<p>【FD 活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・当インスティテュートは発足したばかりで、学生数も少ないため、一般的な FD 活動になじまないため、独自の方法との両面から FD 活動を実施している。</p> <p>【2015 年度の F D 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>								

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・インスティテュートの学生数が少ないため、学生評価者が特定できる可能性があるため、アンケートに向かない科目があるが、それを補う形の評価方法を試みている。

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュート全体では、カリキュラムに適切な教員組織が備えられていると評価できる。また、FD活動において、一般的活動に加えて、授業改善のための独自アンケートを実施し、その結果を担当教員に回覧し、共有されている。

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

NPO・社会的企業研究、協同組合研究、労働組合研究の3つのプログラムを柱として、受講生の研究志向に応じた履修モデルを提示し、幅広い専門科目から受講科目を選択する際の一助とする。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。 A B C

(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

本インスティテュートは、理論と実践の組み合わせによって、研究教育の成果を上げるものとして設定しているが、さらに効果を獲得するために、多摩地区の産官学民プラットフォームの現場学習を実施し、日野市、NPO、生協、労組、法政大学をそれぞれ訪問し、地域連帯の実態調査、研究を行った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。 はい いいえ

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・該当なし(博士後期課程の設置なし)

③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。 A B C

(200～400字程度) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

・該当なし(博士後期課程の設置なし)

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。 A B C

(～400字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

3プログラムの専門性の基礎を相互に理解し理論の幅が広がるようにしている。さらに理論と実践が結合するように、毎週、その世界で最高水準にいる方々を招いて研修している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。 A B C

(～400字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。

海外からの留学生には、語学力の向上について厳しく指導し、研究テーマについては日本の最高レベルの研究者、実践家を紹介、講義を依頼して、レベルの高い研究、論文作成に至るように細かく配慮した指導を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

<p>連帯社会インスティテュートでは地域と連携した研究フィールドをもち、リサーチワークを実施している点は、評価できる。</p> <p>また、学内教員と実務家とによるオムニバス科目「連帯社会とサードセクター」では、全学生が3つのプログラム(NPO、労働組合、共同組合)の主体について学ぶこととなっている。そこには、現場の視察(スタディ・ツアー等)も含まれるが、別プログラムの学生にとっては、他プログラムの内容を学ぶことは、視野が確実に広がる機会である。</p> <p>そして、3つのプログラムいずれにも必要な方法論 Community Organizing を培うため、一体となって取り組んでいることも評価できる。</p> <p>グローバル化に対応した教育については、著名な外国人研究者を招聘して特別講義を実施したり、「大規模協同組合のガバナンス」という洋書の講読を行う授業で、海外の理論を読んで視野を広げる配慮をするなど積極的に取り組んでいるといえる。</p>
--

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A B C
<p>【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修論指導を軸にした講義内容の充実化を図っている。 ・目標を明確にしたために、履修、論文指導に明らかな効果が表れている。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②研究科(専攻)等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることできる状態にしていますか。	はい いいえ
<p>【研究指導計画の明示方法】※箇条書きで記入(ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す(学位取得までのロードマップの明示等))。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①修論指導時に明確なロードマップを明示し、全員に配布した。 ②これまで遅れがちだった研究作業が比較的スムーズに進むようになった。 ③論文作成作業の明確化と時期区分を示すことによって、研究水準を上げる効果につながった。 <p>【根拠資料】※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい いいえ
<p>(～400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学年別の研究指導を行い、効率的な成果があがるようにした。 ②研究水準をあげながら、学位論文の水準に移行させるための指導を3プログラム教員の共同検討、作業として実施している。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・執行部（運営委員会）と作業部会でシラバスチェック等検証を行っている。 ・既定の学生評価アンケートに加えて独自のアンケート用紙を工夫する等努力している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・学生のアンケート結果等を参考にして、3プログラムの教授によって検証を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・成績評価の適切性については、教授会で成績評価基準について討論を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①組織的な教育成果の検証を定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・3プログラムの教授によって、それぞれ問題提起を行い、討論・検証を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 ・教授会で学生の評価についての対応を検討している。当インスティテュートは発足したばかりなので、方法の確定までには時間を要する。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・インスティテュートが発足間もないので、方針面があるが、早急に評価と成果を対応させ、確定していく必要性に迫られている。

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートにおける修論指導のロードマップの配布や、それに基づいた指導の実施を通して、学生の論文の水準が向上したことは、評価できる。さらに、シラバスの検証において、執行部や作業部会での事前検証をした上で、授業改善アンケートと共に、独自のアンケートを実施している点も評価できる。

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】	
<p>学問的知見を踏まえつつ、プロフェッショナルとして実際の公益に資する政策の形成・実施を担う人材を育成し、具体的な運動論や手法に関する科目を配置するとともに、実際に社会の最先端で活動する専門家と知的に交流する機会を作る。</p> <p>修士課程に2年以上在学し、36単位を修得し、かつ修士論文の審査に合格した者に学位を授与する。誰もが多様な働き方を通じて社会参加し自己実現可能な民主的社会とするためにNPO/NGOや社会的企業、協同組合、福祉事業団体、労働組合などに求められる社会的役割を認識し、解決すべき課題の発見、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・発信する能力、それらを実現・解決するための人的・組織的ネットワークを形成する技能、そしてその基盤となる高い志を育成することを目指す。</p>	
4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>・論文指導を強化し、科目履修においても連動して成果が上がるよう、学生のニーズに合わせて講義を行っている。これまでの大学院論文指導の経験と評価実績から判断して成果が上がっていると思われる。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
4.2 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。	
①学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
<p>【学位論文審査基準の明示方法】 ※箇条書きで記入。</p> <p>①入学時のガイダンス、論文指導時にプリントを配布し、指導している。</p> <p>②論文発表時に論文審査の基準を明示している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・特になし</p>	
②学位授与状況(学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等)を把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・まだ学位授与者がいないため、今後の課題である。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	A B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>併設されている研究交流センター、課題別研究所、連続講座への参加、等を通じて学位の水準を保ち、高める努力を行う。</p>	
④学生の就職・進学状況を組織的に把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・まだ修了者がいませんので、これからの課題になります。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは論文指導強化のために、学生のニーズに合わせた講義を実施していることは評価できる。学位論文審査基準については、ガイダンス、論文指導時にプリント配布により学生と共有した上で、論文発表時に再度確認していることも評価できる。

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

本インスティテュートが目指す人材の育成には、幅広い知識が欠かせない。特に、いわゆる社会人入学に配慮し、社会科学の幅広い知識を得るため、それぞれの概論（入門講座）を専門基礎科目として配置する。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※募集人員およびその充足状況をどのように捉えているかを記入。

本インスティテュートは一般公募と組織推薦の学生を運営委員会が審査決定する方式をとっているが、定員を正確に確保することの難しさがある（合格者から入学手続までに至らない場合等）。より正確な形で定員確保を達成する必要がある。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】 ※簡条書きで記入。

・入学説明会、面接試験、審査、運営委員会等を通じて正確な検証に近づけるようにしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について簡条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは学生募集および入学者選抜の結果について、入学説明会、面接試験、審査、運営委員会等、さまざまな場面で検証していることは評価できる。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）等として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。	A B C
（～400字程度まで）※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。 外国人留学生は語学力の水準が低い場合が多く、語学力、学問水準を向上させるため日本人学生のサポートも含め、大学院の総力を当てて支援を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートには NPO プログラムに外国人留学生が在籍しているが、日本語学力の水準を認識した上で、日本の学生のサポートも含め、日本語学力、学習能力向上に向けて、研究科の総力をあげた取り組みをしている点は、評価できる。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。	
①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。	はい いいえ
【2015年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】 ※箇条書きで記入。 ・正式な形では立ち上げていない。	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは、現在、質保証委員会等の内部質保証システムが存在しないので、適切な質保証活動に向けて、その整備が期待される。

【大学評価総評】

連帯社会インスティテュートは、2015年度より開始されたにも関わらず、地域と連携した研究フィールドでのリサーチワークや、各分野の高度な専門知識をもつ外部講師による研修など、理念・目的に掲げる、政策構想力と実践力を兼ね備えた「連帯社会」を築く人材育成に向けたプログラムが、着実に実施できている点は、高く評価できる。

また、こうしたプログラムのもと、インスティテュートの募集人員に対し院生の確保ができていますので、社会において、インスティテュートの意義が十分に理解されているといえよう。

今年度、こうしたプログラムの実施を通して初めての学位が授与される予定であるが、インスティテュート初の学位論文の質が、理念・目的に応える水準となることを期待する。同時に、プログラム全体の検証も行われ、より高い

水準のプログラムへと改善されていくことを望む。